



持って、歩いて、ひもとこう。

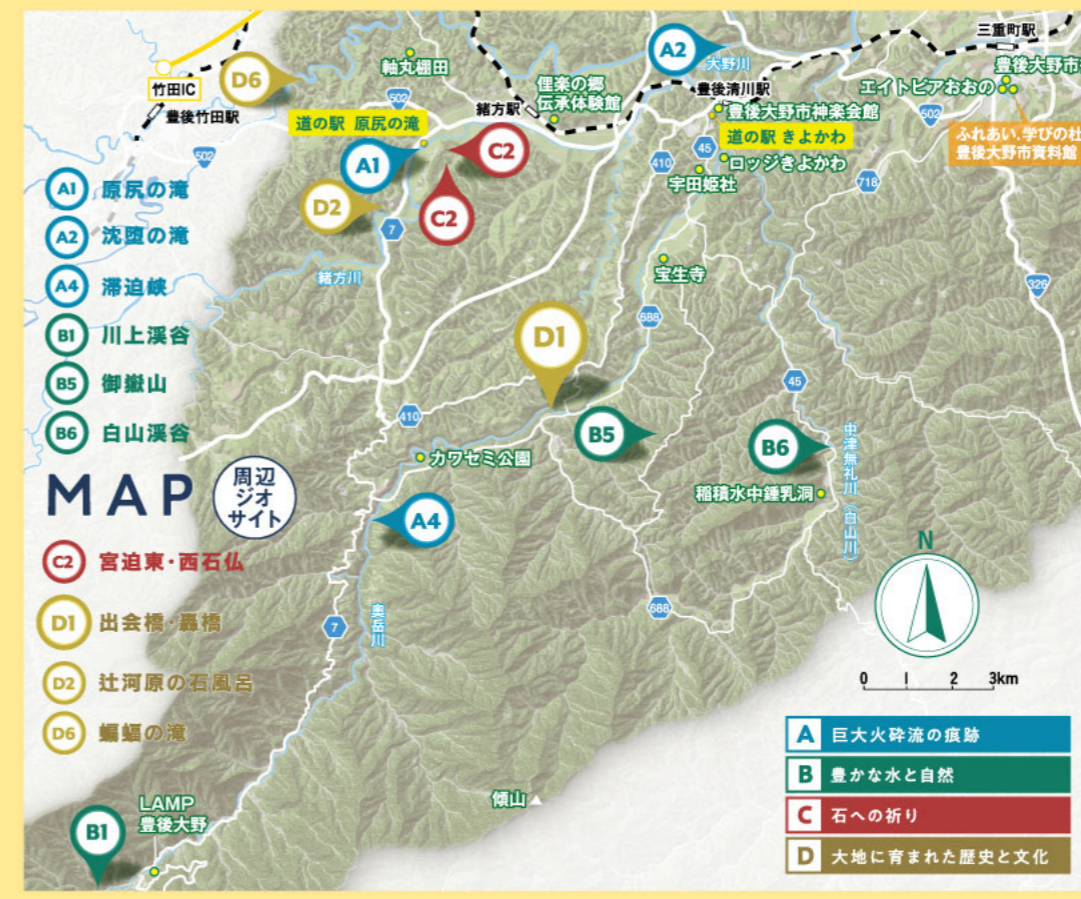


BUNGOONO GEOSITEFILE
豊後大野ジオサイトファイル

出会橋・轟橋

DEAI BRIDGE & TODORO BRIDGE / KIYOKAWA

おおいた豊後大野ジオパーク
Oita Bungoono Geopark



周辺情報



道の駅 きよかわ
大分県豊後大野市清川町砂田1574-1
TEL 0974-35-2117 88台
7:30~18:00
特産のクリーンピーチや金ごまの加工品が揃う直売所のほか食事処など、多彩な店舗が軒を連ねる。

おおいた豊後大野ジオパーク推進協議会 <http://bungo-ohno.com>
〒879-7198 大分県豊後大野市三重町市場 1200 番地 豊後大野市商工観光課内
TEL 0974-22-1001 (代表) FAX 0974-22-3361

おおいた豊後大野ジオパークガイド
TEL.080-2708-7809



日本一と
日本二位の
共演。

DEAI BRIDGE & TODORO BRIDGE / KIYOKAWA

豊後大野ジオサイトファイル 出会橋・轟橋

出会橋と轟橋は、大正時代の終わりから昭和の初期にかけ作られた石橋です。巨大な石橋がすぐそばに並んでいるという一見奇妙な光景ですが、それぞれ建設された目的が違います。このような景観が見られるのは、垂直に切り立った深い谷と、建設資材となった岩石の存在にあります。建設資材となった岩石の存在が、約9万年前におこった阿蘇火山の巨大噴火です。実は、この二つの橋のアーチの長さは日本一（轟橋）と日本二位（出会橋）。自然の営みと人の営みが交差し誕生したジオサイトです。

4 しゃくし岩

しゃくし岩では、きれいな柱状節理の部分
をしゃくしの柄に、その上のエンタブラチャー
と呼ばれる部分をしゃくしのすくう部分に見立
て名づけられたようです。エンタブラチャーと
は、本来なら縦に進む冷却方向が定まらな
かった部分だと言われ、火砕流が厚くたまた
たために見られる現象だと考えられています。

地域の人は、
しゃくしに
見えたんです。



2 轟橋

昭和9年架橋。奥岳川の上流、傾山から木を
切り出すため、営林署が鉄道を走らせました。そ
の時に建設された石橋です。鉄道が走るために
橋は長く巨大になり、二連アーチの径間はそれ
ぞれ32.1m(右岸側)、26.2m(左岸側)、水
面から橋ゲタまでの高さは27m あります。出会
橋も轟橋も使われた石はすべてこの地で採れる
阿蘇溶結凝灰岩。巨大噴火を起こした阿蘇火山
と関係の深い石です。



建設中の轟橋、アーチを
組む様子がよくわかる。

3

1 出会橋

大正13年架橋。この橋の下を流れる、奥岳
川の右岸にある轟地区と左岸にある平石地区
を結ぶ、人道橋として建設されました。アーチ部
分の径間は29.3mで、隣にある轟橋について、
日本第2位の長さになっています。石工には、
当地の住人「界寿光」の名があります。橋長
32.2m、橋幅3.9m。

石橋には岩が
たくさん使われ
ているけど集め
るのが大変。



ジオガイドさん

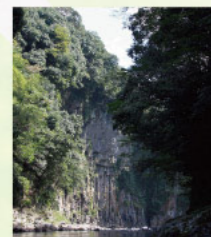
岩は川にも
崖にもたくさ
んあるよ。

カメラポイント
表紙の写真はここから
撮影したものです。

1

3 ボックスキャニオン

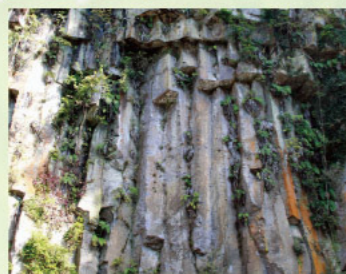
箱のような谷、ボックス
キャニオンは、豊後大野ジ
オパークを代表する景観
のひとつです。
この谷を克服するのは
たいへんな苦勞でした。



阿蘇火砕流と柱状節理

阿蘇火山がおこした約9万年前の巨大噴火では、
九州島をおおような大火砕流が発生し、九州地方を
中心に大きな影響を与えました。特に阿蘇火山の東
側、竹田、豊後大野、臼杵では低い土地のほとんどが
覆われ、そのまま冷えて固まった阿蘇溶結凝灰岩が
見られます。

火砕流とは、火山の噴火によって噴き上げられた
火山ガス、溶岩や火山灰、岩などが崩れ落ち低いところ
へ向けてかけ下るもので、時速100kmを超えるス
ピードと、300度から700度とも言われる熱をおびて
いると言われています。火砕流は高熱のままどま
ったため、自分自身の熱で再び溶けじょじょに冷えてい
きました。その時、上下から冷えることで収縮し縦方向
の亀裂がはしり、まるで鉛筆を束ねたような姿となりま
した。これが柱状節理と呼ばれるものです。



まるでカーテンのような
岩。自然にできたとは、に
わかには信じられません。

阿蘇の大噴火と川がつくった渓谷



現在の奥岳川の流は、約9万
年前の阿蘇火山の噴火以前もや
り川であったと考えられています。

約9万年前、阿蘇火山は山をす
べて吹き飛ばすほどの大噴火を
おこし、火砕流が発生します。

火砕流は、低いところを目けて
流れてきます。特に川が流れて
いた部分では大量にたまりました。

火砕流はそのままどまり、自身
の熱で再び溶けた後、徐々に
冷えていきます。

もともと低かった場所が火砕流
に覆われたため、川は再び同じ
ような場所を流れていきます。

川の流は固い岩もげずって
いきます。縦方向のひび割れに
よって、深い谷をつくります。

それは
自然の摂理と
人の想いの結晶。

約9万年前におこった阿蘇火山の噴火による大火砕流
は、阿蘇に近いここ豊後大野の地のほとんどを覆い
尽くした後、冷え固まり「阿蘇溶結凝灰岩」となりまし
た。その冷える過程で入った縦方向のひびは、川によつ
て削られることで、垂直に切り立ち、まるで大きな溝
のような渓谷を作りました。この谷は川を渡りたい
人々にとって困った存在でしたが、江戸時代になると
この地方に石造りのアーチ橋をかける技術が伝えら
れ、目の前にある崖から「阿蘇溶結凝灰岩」を切り出
し、建設資材としました。

カメラポイント

足元注意

車に注意